小野測器の歩み　時代とともに、暮らしとともに、安心・安全で豊かな毎日を支えてきました

1954

・小野測器製作所 設立
・現宇都宮テクニカル&プロダクトセンターを新設
・ジェットエンジン用デジタル回転計を製作
・各種デジタル計測器の製造販売を開始
・自動車用の新車開発試験用計測器に着手
・国鉄新幹線用ブレーキテスタの計測盤を受注

1970

・世界初、ハンディタコメーター HT-300を開発
・デジタル速度計でプロ野球選手のスイング測定
・騒音計、振動計の販売を開始

1980

・株式会社小野測器に商号変更
・米国イリノイ州に現地法人オノソッキテクノロジーインクを設立
・東京国際マラソンに非接触速度計が採用
・南極観測船しらせに軸馬力計を搭載

1990

・横浜市にテクニカルセンターを新設
・横浜テクニカルセンター内にAcoustic Labを新設
・中国上海に北京駐在員事務所を開設
・ランドマークタワー建築の際に画像処理技術にて貢献
・世界初、FFT機能搭載回転計を商品化
・世界初、ハンディ型フルデジタル騒音計を商品化
・世界初、ディーゼルエンジン用マルチ燃料噴射率計を商品化（低公害化）

2000

・横浜テクニカルセンター/宇都宮テクニカル&プロダクトセンター内にオートモーティブテスティングラボを新設
・タイ王国ノンタブリ県に現地法人オノソッキ(タイランド) を設立
・新横浜に本社・ソフトウェア開発センターを新設
・H-ⅡA/H-ⅡBロケットの回転計測に貢献

時代を拓いた計測器

1961
国内初
カウンターを
トランジスタ化

QA-5B ユニバーサルカウンター

1973
世界初
ハンディタイプの
タコメーター

HT-300

1973
国内初
デジタル
ダイヤルゲージ

DG-140

1973
FFTアナライザー

CF-700

1976
国産初
箱物FFTアナライザー

CF-650

1989
騒音計
デジタル表示

LA-500

1989
エンジン制御装置

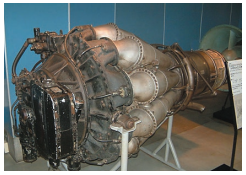
HU-1000

1990
世界初
FFT搭載回転計

FT-500 アドバンストタコメーター

くらしを豊かに楽しく

1954
イギリスから輸入したジェットエンジンを日本初のジェットエンジン回転計で公開テスト※



1980-
漏水を早期に探知可能な漏水探知器をフジテコムと共同開発
(写真は相関式漏水探知器LC-5000)

1988-1990
南極観測船しらせに船用軸馬力計を搭載

1990
ランドマークタワー施工時の位置合わせで正確な建築と工期短縮に貢献

写真提供：大成建設（株）

2007-
H-ⅡA／H-ⅡBロケットの回転計測に当社回転計が貢献

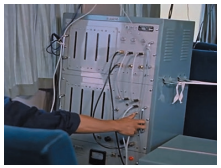
©JAXA

2009
バイオリンの音を極める音響計測技術

写真提供：
ヤマハ（株）

安心快適モビリティ

1959
特急こだま高速度試験
パンタグラフと架線が離れた時間をデジタル計測



1988
Honda F1
エンジン開発で
16戦15勝に貢献

1999
トヨタ自動車と
VRSを共同開発
台上試験の大幅な進化に貢献

※Photo copyright 2004 by Paul Richter, licensed under GFDL.
https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Rolls-Royce_Derwent.jpg

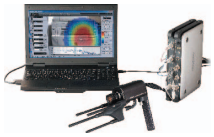
2010

・インド共和国ハリヤナ州にオノソッキインディアを設立
・宇都宮テクニカル&プロダクトセンター内に
オートモーティブ テスティングラボ U2を新設
・相関式漏水探知器にて水道管の
管路維持に貢献
・4chビームフォーミング音源可視化システムが
日本音響学会 技術開発賞を受賞

2020

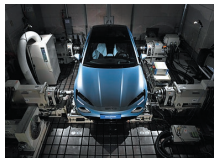
・株式会社Sound Oneを設立
・みなとみらいに本社を移転
・EVベンチマーキングレポートの販売を開始
・ローノイズマイクロホンの販売を開始

2017
日本音響学会
技術開発賞　受賞



4chビームフォーミング 音源可視化システム

2023
EVベンチマーキング
レポート販売



2024
世界最小クラスの自己雑音
ローノイズマイクロホン

MI-1282M10

2011
安心快適な
次世代モビリティの
開発に貢献
IMUとGPSの融合：
GPS車速計

LC-8000シリーズ

2024
第三者試験機関の音響計測
の高精度化に貢献

2012〜
東北新幹線
音響振動計測で快適な
移動空間実現への貢献

提供：鉄道総研写真班OB 清水氏

2022
NISMO SUPER GT
レース優勝に貢献

©NMC

納入事例紹介〈南極観測船しらせ〉

日本の南極観測船としては3代目となる「しらせ5002」の推進軸には小野測器の軸馬力計が装着されていました。本船は1982年より運用が開始され、2008年に退役するまで日本と南極昭和基地の間を25往復、地球約21周分となる54万マイルを航行しました。本船は厚さ1.5mもの海氷を時速3ノットで航行することが可能でした。3万馬力という途方もないパワーで氷を粉砕するため、軸馬力計にはトルクや馬力を高い精度で計測することが要求されていたのです。

本船は退役後、2010年より一般社団法人WNI気象文化創造センターにより管理が行われており、千葉県船橋港に停泊しています。

納入事例紹介〈相関式漏水探知器〉

当社製品は、世界の水道インフラを支えています。当社と協力関係にある「フジテコム株式会社」は、主に水道管等の検査機器を製造、販売するメーカーです。同社が2018年に発売した「GPS搭載デジタル4点リアルタイム相関式漏水探知機クアトロコアLC-5000」の開発、製造には、当社の技術が深く関わっています。

この相関式漏水探知器とは、管路を伝播してくる漏水音を2つのセンサーで捉え、その時間差から漏水点を算出するものです。本製品が採用した6経路同時相関処理は発売当時、世界初の技術でした。本製品は7カ国語に対応した世界戦略製品で、現在、世界50カ国以上に輸出されています。

はかるでつなぐストーリー　小野測器の歩み［特別編］

マイクロテック・ラボラトリー
「μダイレクトドライブモータ」

一般的なサーボモーターと比較して低速・高トルクが特徴の製品。手術用ロボットや半導体ウエハの搬送など幅広い分野で使用されている

SEQSENSE
警備ロボット「SQ-2」

自律移動型警備ロボット「SQ-2」。独自の 3D LiDARを搭載し、移動歩行者をはじめとした動体の発見、環境の変化検出を行うことが可能。μDDモータが使用されている

神奈川県相模原市に本社を構える「マイクロテック・ラボラトリー株式会社」は、高精度なロータリエンコーダーやモーターの製造、販売を行う企業です。当社とはOEM品を供給していただくなど30年来のお付き合いです。

同社は1981年の創業当時からロータリエンコーダーを開発・販売していましたが、2015年にその技術をベースとしたダイレクトドライブモーター「μDDモータ」を開発し工業用モーター市場に参入。本製品は発売後、半導体業界をはじめ手術用ロボット用モーターへの採用など、同社の売り上げの3割におよぶ製品群へと成長を遂げています。

同社は現在、当社のトルク検出器MTシリーズとトルクステーションTSシリーズを導入されています。

「当社のμDDモータは、高トルクを実現するために、ギリギリまで永久磁石とコイルの間を詰めています。コギングトルクを完全に消すことは不可能なのですが、スキュー（※コイルの巻き線溝のある鉄芯を捩じること）を施すなどして、“軟着陸”させます」

と語るのは、同社代表取締役社長を務める野村優介氏。製品のトルク容量に合わせてトルク検出器 MT-82M14とトルク検出器 MT-6222Aを使い分けてコギングトルクを計測されているほか、できたばかりの試作品の性能評価にトルク検出器 MT-84M25をご使用いただいています。

代表取締役社長
野村優介氏

営業部
山崎　淳氏

技術部
合田英樹氏

小野測器
製造ブロック
ブロック長
岩﨑　仁

小野測器
センサ製造グループ
係長
猪瀬直紀

小野測器
試験機技術ラボ
係長
岩井真澄

今回、当社製品を納めるにあたり、製品を担当する岩井真澄（試験機技術ラボ所属）は、岩﨑　仁と猪瀬直紀（製造ブロック所属）とともにプロジェクトを推進しました。

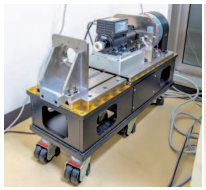
「製造が難しい製品だと思っています。一応標準製品のラインアップになっているものの、お客様のニーズに合わせてカスタマイズすることがあり、半特注対応が多いです（猪瀬）」

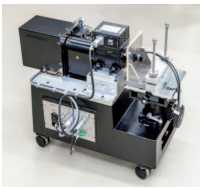
「トルク検出器 MT-84M25は供試体の取付治具をマイクロテック・ラボラトリー様のニーズに合わせて作っています。岩井さんと密にやり取りを行い、μDDモータを実際にお借りして製作を進めました。実際に本製品が使われているのを見るのは今回が初めてでした（岩﨑）」

二人のコメントを受け、岩井は述懐します。

「今回マイクロテック・ラボラトリーの皆様にお話を伺い、私が担当する製品が製品開発に役立ち、品質の担保にも貢献していることが嬉しかったです。身が引き締まる思いです」

当社に関わるお客様が提供するソリューションが、日常を支える新たなスタンダードになることを願っています。





トルク検出器 MT-84M25（右）、MT-82M14（左）

同社町田工場には2014年8月にトルク検出器 MT-6222Aとトルクステーション TS-7700を導入。同社中町開発センターには2023年2月にトルク検出器 MT-82M14及びMT-84M25を導入。MT-84M25用に当社製取付治具も提供している